

2017年に小学6年生だった長男、2018年に5年生だった次男が
各々ウィスラーのサマーキャンプに参加しました。

長男がこのキャンプに参加することになったきっかけは、幼稚園の頃から
続けてきたチームでのサッカーをこれからも続けるのか迷い、自分がやりたい
ことを探している時、偶然このキャンプの話を知ったことでした。

「サッカー辞めて留学してみたい」と本人は軽い感じで言っていたので、親としても
まだ小学生だし心配もある。高校生くらいになってからでもいいんじゃない？と
思っていたが、TAMWOODのシステムを知りその考え方が変わりました。

ホームステイには不安があったのですが、ここでは寮生活が選べ、様々な国の
人達と生活しながら学ぶことができます。もし困ったことがあっても24時間のサポート
が受けられ、食事もしっかりと摂れるという所も安心でした。

小学生が留学なんて……！と思っていたが、本人の意思も固くこの「やってみよう」
という気持ちを実現させてあげたい。今が本人のタイミングなんだと信じて
行かせてみることに決めました。親も子も初めての経験、手続きや準備など
不安でしたが、疑問があればエージェントが現地に問い合わせをしてくれて
一つ一つ丁寧に対応してくれて安心できました。

2週間も離れて生活するのも初めての経験でした。気になる現地での様子は
TAMWOODのスタッフが撮ってくれた写真をネットで見ることができ、時前に
もらっていたスケジュール表と照らし合わせて「この写真はこのイベントだね」なんて
言いながら、日本に居ても留学先の様子を知らることができました。

毎朝ミーティングをしてその日の予定を伝えられ、部屋に戻って準備ある。
午前中は湖に行って泳いだりカヌーしたりしてカナダの大自然と満喫。
のびのびと楽しい様子が写真から伝わってきました。現地から泊って
キャンプやバンクーバーへの旅行もあり、毎日が充実の日々だったようです。
もちろん語学のレッスンもあり、同じように母国語を英語としない様々な国の
友達と楽しく学ぶことができたようです。

日本で生活していたら何となく誰かがやってくれていたことも留学先では全て
自分で考えやらなければならない。これまで経験した2泊3日の合宿とは
わけが違います。生活すること自体が刺激的で自分を見直すトレーニングでした。
初めは話のスピードに戸惑い、分からないこともあったようですが、日常で使う
フレーズも徐々に耳で覚え、1週間たつ頃にはずいぶん聞き取れるようになった
ようです。湖に遊びに行くのにタオルを忘れたり矢張りもしたようですが
周りに助けられながら2週間はあっという間に過ぎました。

いよいよ帰国の日。帰国を待つ私たちの心境もこの2週間でバリエーションから
期待に変わっていました。出国ゲートから出てきた長男は最高の笑顔でした。
その第1声は「たーいま!! お父さんお母さん行かせてくれてありがとう!!!」
親への感謝の言葉が聞けた時、この決断をして送り出して本当に良かったと
思えました。「経験は宝」と言いますが、まさに彼は人生の中で最も素晴らしい
2週間を過ごしてきたのだと思います。その体験を聞いた次男、長男と
一緒に行くことをすすめた時は拒否していたけれど翌年のサマーキャンプに参加
することになりました。(笑)

サマーキャンプ参加後は「英語への壁」がなくなり、^{ハリウッド}映画を観ていても身に入ってくるフレーズが増えました。現地のレッスンで自分と外国の友人の語学力の差を感じ、もっと伝えたい、もっと話せるようになりたいと強く思うようになったことも大きな成果です。

ホームシックも初めて経験。それでも同じように親元を離れて参加している子供達同士、優しくなぐさめてくれたり支え合って乗り越えることができました。大人になってからでは決して味わうことのできない2週間が小学生の彼らを大きく成長させてくれたと思っています。

このキャンプに参加させて本当に良かった。子供の力を信じて良かったことばかりだと思います。